

日建連建築セミナー開催報告 「あらためて『ものづくりの現場』から」

日建連は、日建連建築宣言基本方針の「世界に誇れる未来の建築文化の創造」に向けた活動の一環として、毎年建築セミナーを開催している。セミナーには活躍中の建築家を講師に招き、日建連会員だけではなく、建築を学ぶ学生や設計業務に携わる若手に向けた講演及び対談を行っている。

『ものづくりの現場』の楽しさ

今年度の講師は、ブランツアソシエイツの宮崎浩氏。「あらためて『ものづくりの現場』から」と題して、十月三十一日に東京証券会館ホールで開催した。宮崎氏は、新山口駅北口駅前広場「○番線」・南北自由通路(竣工二〇一八年、第六〇回BCS賞受賞)、長野県立美術館(竣工二〇二〇年、第六三回BCS賞受賞)などを設計している。講演ではBCS賞受賞作品のほか、大卒卒業後に一〇年間に在籍した楨総合計画事務所時代に担当した京都

国立近代美術館やTEPIAなどを紹介した。設計の経験に加えて、ランドスケープ、サインングラフィック、プロダクトデザインなどの幅広いものづくりへの取組みを例に挙げながら、自身の設計アプローチについて解説した。

宮崎氏は、楨総合計画事務所時代の現場監理で、職人の手により建築が建ち上がる過程を目の当たりにし、ものづくりの面白さに感銘を受けたという。一九八六年に竣工した京都国立近代美術館を担当した際も現場に常駐し、経験豊かな職人やゼネコン社員に教えを請いながら、設計図をはじめ設備図に至るまで自ら図面を引いた。ものづくりの現場を最も大切に考える考えは独立し



長野県立美術館(長野県長野市)についてブランツアソシエイツの宮崎浩氏が講演する様子。

た今もお生き続けているという。

建築とその周辺をデザインする

宮崎氏は、建築のみならずランドスケープやプロダクトも含めてデザインすることで、建築とその周辺

をつなぐことを大切にしているという。新山口駅北口駅前広場「○番線」・南北自由通路では、基本設計

前の市民参加型ワークショップの開催を山口市に提案し、そこで得た感触を下に「まちとつながる」駅前広場のコンセプトを導き出した。駅前広場の周辺施設を仮設計して建ち現れる街の未来像をイメージし、その姿を実現するための駅前広場を逆算的に検討した。

第二部で対談した賀持剛一建築

設計委員長は宮崎氏の建築について、緻密なディテールだけでなく建築全体として周辺環境との調和を追求していることを改めて理解することができた、と語った。対談の最後は宮崎氏から若い世代に向けたメッセージとして、ことづくりに関心が集まる状況に理解を示しつつも、ものづくりの現場には生涯の仕事たり得る十分な魅力があると伝え、今後も若い世代とともに建築をつくっていききたいと締めくくった。



長野県立美術館(長野県長野市)

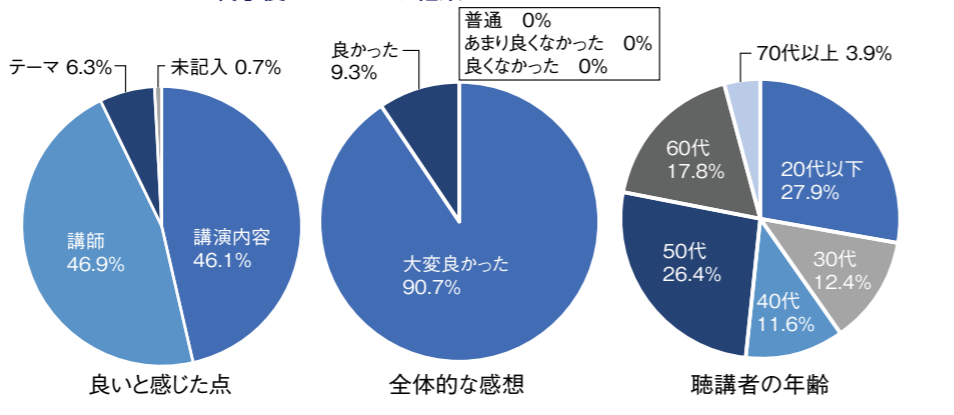
ジウムを標榜した長野県立美術館でも同様に、計画敷地を越えて周辺道路や善光寺境内のサインを提案。長野市や善光寺も快諾し、美術館と善光寺をつなぐ参道やデザインなど地域に統一感のある計画が実現した。

ことづくりとものづくり



日建連のYouTubeチャンネルはこちら

セミナー終了後のアンケート結果



アンケートコメント(抜粋)
・宮崎さんの言葉が飾らず、ものづくりの楽しさを施主、設計者、施工者全員で共有していることがひしひしと伝わってきて、ものづくりをもっと楽しんでいます。いというモチベーションをもらいました。確かに、ことづくりにシフトしつつある今、あらためてものづくりの重要性を感じるセミナーでした。